児童に見られるつまずき

　問題文と絵を対応させて、正しく図や式に表すことができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　問題場面がかかれた絵にブロックを重ねたり、場面を言語化したりするなど、場面の数量関係をイメージできるようにする

指導事例集ｐ．７７

１　学年・単元名　　第１学年　ひきざん（２）けいさんのかみしばい（数量関係領域）

２　単元目標

　（十何）－（１位数）で、繰り下がりのある場合の計算の仕方を考え理解し、計算ができる。

３　単元の内容

・操作による繰り下がりのあるひき算の仕方の理解

・繰り下がりのあるひき算の一般化と定着

・減数が６以上のひき算の練習と適用題

・減数が５以下のひき算の練習と適用題

・算数カードの答えによる分類

・算数カードによるひき算の練習

・□を使った式の素地

**・式をもとにした、たし算とひき算の紙芝居づくり**

・基本のたしかめ

４　本時の目標

　　　・ひき算の紙芝居づくりを通して、問題文と絵が対応できるようにする。

　　　・図と式が関連付けられるようにする。

参考：写真

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　絵を見て問題を考える。  えを見て、14-9=5になる  おはなしをつくりましょう。  あめ全部で１４個  　ぼうのついているあめ５個  　ふくろ入りのあめ９個  　ぼうのついているあめ14円  　ふくろ入りのあめ９円  ２　あめの数をもとに、紙芝居の絵を、数図ブロックに置き換えて考える。  　・「何が何個」「何個から９個食べる」などのセリフを声にだして言ってみる  ワークシート③使用  参考：ワークシート③記入例    ・数図ブロックを動かして、ノートに式とせりふを書く。  ３　単位に注目して、図で説明しなおす。  　〇14個―９個＝5個  　×14個―９円＝５  　〇14円―９円＝５円  　×14円―９個＝５  参考：写真②  ４　ふりかえり | ・問題文を正しく理解せずに作問をしてしまう児童に注意する。  ・「値段」と「個数」の違う数字のものをひき算の対象にしてしまう児童がいることに注意する。  ワークシート①使用  参考：写真①、記入例  **・問題場面の絵の入ったワークシートを用意し、絵にブロックを重ねながら、ひき算のイメージができるようにする。**  ・何が何個あるのかな？」と問いかけ、ブロックを操作させる。  **・「９個食べる」などのセリフを作り「言語化」することで、作問のイメージ作りができるようにする。**  **・「円」「個」の単位に着目させ、同じ単位どうしのひき算であることに気づかせる。**  ・「1円玉が何枚」と問いかけ、１円玉が14枚と９枚の図をかかせる。  **・図にブロックを重ねることで、ブロックを操作しながら、数の違いに気づかせて、紙芝居のせりふにつなげる。**  （評価）  ・正しく言語化して、作問のイメージを捉えられたか。  ・「値段」と「個数」の違う単位のものを混同せず使えたか。 |